

## は じ め に

ここに『国際交流基金日本語教育紀要』第6号をお届けできることは、私どもの慶びです。

本紀要には、当基金の日本語教育事業に携わる日本語教育専門員・専任講師、客員講師、派遣専門家、職員等が日々の活動の中で取り組んできた問題や課題をまとめ、「研究論文」（研究成果に独創性がある理論的・実証的論文）、「研究ノート」（教育、教材開発などの実施過程でまとめられた中間研究報告）、「実践報告」（教育、教材開発などの実践の目的、特色、経過、成果などについて紹介・分析した報告）、「報告」（当基金が実施する事業に関する報告や海外の日本語教育関係機関の視察報告等）として執筆したものの中から、編集委員会による厳正かつ公平な審査のもと、計10編を選定し掲載しました。

国際交流基金では、2009年（平成21年）に、「日本語能力試験」の複数回化や「JF日本語教育スタンダード」の構築を進めて参りました。また、2010年（平成22年）には、新たな日本語能力試験の導入を開始する予定など、国内外において多様化と多層化が進む日本語教育の現場からの声に応えるべく、日本語教育のさらなる発展のため、事業の一層の充実に取り組んでいます。

本紀要に対する皆様からの忌憚のない御意見、御批判をいただければ幸いです。

2010年（平成22年）3月

国際交流基金